

「電源地域自治体が活用しやすい補助事業事例集」を発行しました

(財)電源地域振興センターでは、この度、電源地域自治体の方々が活用しやすい補助事業や支援事業等について、各地の活用事例を含めて取りまとめた「電源地域自治体が活用しやすい補助事業事例集」を発行いたしました。

これは、国が自治体の地域振興への取り組みに対して支援する様々な制度を「商業振興」「観光」など七つの地域振興のテーマ別に分類して、「考

えられる施策」や「主な支援策」など、解説を加えて掲載しています。

■補助事業事例集のお問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 調査企画課
 電話：03・5405・8112
 e-mail: chousakikaku@dengen.or.jp

大都市圏における物産展に関するお知らせ

この度、神奈川県横浜市の「パシフィコ横浜」にて、六月十九日(木)～二十二日(日)の四日間、(社)日本観光協会が開催する「旅フェア2008」が開催されます。

全国各地の観光情報と多くの特産品が一堂に揃う展示会とあって、毎年十五万人もの来場者が訪れています。電源地域で生み出された商品の開発・改良と販路拡大・販売力向上につな

がる大変有効な場所であり、このような物産展への参加機会をお探しの方は、ぜひご検討ください。

詳しくは、左記の「旅フェア事務局」までお問い合わせください。

【旅フェア事務局(社団法人日本観光協会内)】
 電話：03・6222・2540
 e-mail: info@tabfair.jp
 URL: http://www.tabfair.jp/

※なお、旅費等の補助金はありません。

電源地域への企業誘致・立地促進を支援します

(財)電源地域振興センターでは、電源地域における企業立地などを支援しています。

企業に対しては、各種イベントにおけるブース出展や企業説明会などを通じて電源地域における立地環境や支援制度情報を総合的に提供しています。

また、立地意向のある企業に対しては直接訪問し、候補となる電源地域が用意する優遇措置や事業環境等のPRを行っています。

自治体に対しては、最新の企業立地意向や業界の動向を踏まえ、企業ニーズにあつた立地環境整備を図っていたため、ダイレクトメール事業によ



電源地域マップ

り企業の地方立地意向調査を実施し、分析・整理の上で情報提供を行っています。

さらに、特定市町村の要望に基づき、企業誘致方策を検討する「企業導入計画調査」なども実施しています。

このほか、電源地域への誘致活動資料として「電源地域立地支援制度の概要」「電源地域マップ」を発行し、電源地域を広くPRしています。

当センターでは、地域特性を生かした提案型誘致を実現するため、今後とも各地域の皆さまと連携を密にし、相互情報交換を行っていきたくと考えています。

企業誘致支援などについてのお問い合わせ：ご相談はこちらまでご連絡ください。

■お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 企業誘致課
 電話：03・5405・8116
 e-mail: yuuchi@dengen.or.jp

電源地域立地支援制度の概要

特産品販路拡大支援事業の実施報告

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受けて、電源地域における特産品の販路拡大等を支援する事業を実施しました。

一、産品相談・商談会

電源地域の事業者を対象として、三越・高島屋・伊勢丹等大手百貨店やイトーヨーカ堂等大手スーパーのバイヤーが直接面談し、商品の評価やアドバイス、店舗で扱う場合の条件等を指導するという産品相談・商談会を実施しました。

今年度は首都圏を中心に、大阪・広島・札幌でも開催し、九カ所の会場で百八十一事業者と約六十人のバ



産品相談・商談会の風景

イヤーが集い、四百五十七件の相談・商談を行いました。

回を重ねることに参加者は増えており、産品の中には評価が高く、出店に結びついた商品もありました。バイヤーからは「産地の考え方・方針が良く分かり、勉強になった」、事業者からは「積極的なアドバイスを多く頂き、今後の取り組みに期待が持てます」等の感想があり、事業者・バイヤー双方がこの事業へ高い期待を寄せていることがうかがえました。

二、対面販売チャレンジの開催

電源地域の特産品を扱う事業者が百貨店・スーパーの催事場等で、大都市圏の消費者に向けた実践販売を行う「対面販売チャレンジ」を実施しました。

産品・商談会等で高い評価を得た事業者が主に参加し、今年度はイトーヨーカ堂(東京で二回と横浜)と岩田屋(福岡)、藤崎(仙台)と合わせて五回実施しました。

対面販売の中でお客さまの声を聞き、大都市圏の消費者のニーズを知ると

もに、バイヤーやフロアマネジャーから販売方法や展示方法、商品の改善点等のアドバイスを受けました。

参加した四十七の事業者からは「初めての百貨店や大手スーパーでの販売で、戸惑いがあったが、習得したものが多く、今後に生かしていきたい」との声が聞かれました。



イトーヨーカ堂・木場店で対面販売の実施風景

三、佐田岬伊方町の観光と物産展を開催しました

一月九日(水)～十五日(火)の七日間、愛媛県伊方町の物産展を日本橋高島屋で開催しました。これは原子力立地地域の自立的・持続的な発展及びエネル



日本橋高島屋の催事場にて

ギー消費地域の方々に原子力立地地域への理解を深めていただくことを目的とした事業です。

物産展の開催に先立ち、伊方町の観光協会や事業者の方々とマーケティングや、販売方法等について学ぶ勉強会を三回実施。物産展の会期中は「岬あじ・岬さば」に代表される新鮮な海の幸や「媛の匠(みかん)」「こぼん」等の柑橘類、「じゃこ天」「じゃこカツ」等地元でも人気の高い特産品約七十点を販売しました。

また、売り場に設けた観光PRデスクには、来場者が伊方町の見どころを自由に閲覧できるようにパソコンを設置し、首都圏の消費者に伊方町情報について見識を深めていただきました。

「エネルギー人形劇」を上演しました

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、全国で次世代層向けのエネルギー人形劇を上演しました。

十二月には松江市立島根小学校及び恵曇小学校、一月には玄海町立飯屋小学校及び町民会館にて上演し、合計百七十六名の方にご覧いただきました。これにより平成十九年度に予定していた八カ所での上演をすべて終了しました。

人形劇は、えねお(元気が少しわがままな男の子)とニャーコ(もの知りなネコ)がCO₂発生怪獣ニサンゴンと戦い、最後には三人で地球環境について考えていくという内容で、上演時間は二十五分程度です。

ご覧いただいた方にお配りしている「エネルギーミニ絵本」巻末のアンケートでは、「省エネについて、家庭でもできることからするようになった」などの感想が聞かれました。

■お問い合わせ先
【財】電源地域振興センター 普及啓発課
電話：03・5405・8128
e-mail: fukyu@dengen.or.jp #7



松江市立島根小学校での上映風景



玄海町立飯屋小学校での上映風景

「原子力発電所見学会」を実施しました

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、原子力発電の必要性や安全性、立地地域の実状に対する認知向上や理解促進を図る「原子力発電所見学会」を全国で実施しました。

一月には日本原子力発電(株)東海第二発電所、関西電力(株)大飯発電所、二月には中部電力(株)浜岡原子力発電所の見学会を実施し、それぞれ電力消費地である東京都内、神戸市、横浜市などから教職員や自治体職員など計百五十六人に参加いただきました。これにより、平成十九年度に予定していた十回の見学会を終了しました。

見学者からは、「マスメディアからの情報だけでなく、自分の目で現場をみる大切さを実感した」「学校の授業で取り上げたい」といった声が聞かれました。

■お問い合わせ先
【財】電源地域振興センター 普及啓発課
電話：03・5405・8128
e-mail: fukyu@dengen.or.jp #7



2月2日 中部電力(株)浜岡原子力発電所・訓練センター



1月26日 関西電力(株)大飯発電所・PR館



1月19日 日本原子力発電(株)東海第二発電所・意見交換会風景

【Vol.10 読者の声から】

●特集「Pick Up」で取り上げた広島県安芸高田市の取り組み「住民と行政の協働」のまちづくりは大変参考になりました。というのも、私の住む村は合併こそしていませんが、行政と地域住民との関わり方について考えていく時期にきていると思うからです。

(長野県豊丘村 女性)

●「住民と行政の協働」により地域活性化を進めている広島県安芸高田市の事例は、地域振興の是非を決めるもの、まさしく住民と行政の協働であり、いかに住民のパワーを活用す

るかがポイントであることに気づかせてくれた。

(香川県高松市 男性)

●私の町では、昨年十一月に「吉岡銅山遺跡」や「笹畝坑道」などが経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されました。現在、それら遺産を生かした観光開発を進めています。

(岡山県高梁市 男性)

●私の町美唄市は、黒紫色の実と強い酸味の特徴の木の実「ハスカップ」の生産量が北海道内で第一位です。このハスカップにはビタミンC、カルシウム、鉄分などが多く含まれて

いて、北海道の先住民であるアイヌの人達の間でも昔から「不老不死の木の実」として食べられていたそうです。

(北海道美唄市 男性)

●人と人が力を合わせると、こんなにも笑顔。ピカピカに暮らせるんだと毎号読むたび、考えさせられます。

(宮崎県延岡市 女性)

●高島市では、陽明学の祖である中江藤樹が生誕して四百年となることから、いろんな記念事業が検討されています。

(滋賀県高島市 男性)

【読者プレゼント】

今号の特集「Pick Up」にご登場いただきました熊本県小国町のご厚意により、「ジャーシューヨーグルトセット」を五名様にプレゼントいたします。

とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見、ご感想などをご記入の上、平成二十年四月二十日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



【編集後記】

「食の安全」について関心が高まっている中、首都圏の駅構内にある産直の売り上げが、二倍になっているとのニュースを見ました。また、最近では産直コーナーを設けるスーパーもあり、「作っている人の顔が見える」など信頼性が消費者のニーズのようです。

電源地域には「食」にまつわる地域資源がたくさんあります。この機会に、日本のさまざまな食材に目を向け、さらには伝統的な調理法や保存方法等、先代の知恵を学ぶ良い機会にしていきたいと思っています。(S)

人事往来

●電源立地都道府県知事(平成19年11月～平成20年1月選挙分)

都道府県名	氏名	当選月日
高知	尾崎 正直	11月25日
大阪	橋下 徹	1月27日

●電源地域市町村首長(平成19年11月～平成20年1月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
南牧村(長野)	菊池 幸彦	11月11日
阿南市(徳島)	岩浅 嘉仁	11月11日
長岡市(新潟)	森 民夫	11月11日
飯島町(長野)	高坂 宗昭	11月13日
青梅市(東京)	竹内 俊夫	11月18日
常滑市(愛知)	片岡 憲彦	11月18日
いなべ市(三重)	日沖 靖	11月18日
宿毛市(高知)	中西 清二	11月18日
富士河口湖町(山梨)	渡邊 凱保	11月18日
南相木村(長野)	中島 育男	11月21日
高知市(高知)	岡崎 誠也	11月25日
南国市(高知)	橋詰 寿人	11月25日
岩泉町(岩手)	伊達 勝身	11月28日
福岡町(兵庫)	嶋田 正義	11月28日
浪江町(福島)	馬場 有	12月2日
大口市(鹿児島)	隈元 新	12月10日
福井市(福井)	東村 新一	12月23日
芝川町(静岡)	野村 寛	12月23日
八百津町(岐阜)	赤塚 新吾	1月15日
六戸町(青森)	吉田 豊	1月15日
中之条町(群馬)	入内島 道隆	1月15日
泊村(北海道)	牧野 浩臣	1月20日
駒ヶ根市(長野)	杉本 幸治	1月20日
大津市(滋賀)	目片 信	1月20日
出雲崎町(新潟)	小林 則幸	1月27日